

西東京市 図書館だより

平成25年(2013年) 4月1日

第49号

中央図書館

西東京市南町5-6-11
042-465-0823

保谷駅前図書館

西東京市東町3-14-30
042-421-3060

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
042-465-9825

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
042-421-4545

柳沢図書館

西東京市柳沢1-15-1
042-464-8240

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
042-424-0264

編集・発行:西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>



「作るアイデアを教えてくださいる伝説の花」

上向台小4年

東日本大震災から二年、 現地はいま……

図書館長 奈良登喜江

東日本大震災の発生から二年が経過しました。

あの日、西東京市図書館は大きな被害もなく、その後、計画停電のため四月いっぱい夜間開館を中止しましたが、閉館はせずに利用していただくことができました。震災当日は、一時避難所として帰宅困難者の方を受け入れましたが、ずっと続いていた余震の揺れに、一晩中不安な気持ちで過ごした記憶が残っています。

被災地の図書館は大きな被害を受けました。岩手県では津波により陸前高田市立図書館の職員全員が行方不明または亡くなりました。宮城県では南三陸町図書館の建物や資料が全部流され館長が亡くなりました。福島県では県中央部で地盤沈下が多く見られ、一部は移転するなどして再開されていますが、福島第一原子力発電所三〇km圏内の図書館は、現在も厳しい環境に置かれています。

あの日から二年が過ぎ、日々の忙しさに甚大な被害をもたらした大震災の記憶も少しずつ薄れていく中、西東京市図書館では、改めて被災した地の現在を知る機会を市民のみなさんに提供できないかと考えました。そこで、被災地の図書館への支援活動がされている方や現地に常駐して復興支援をされているNGOの方を講師に招いた連続講演会と図書館の被災状況と現在の様子わかる写真展を実施しました。どの講師の言葉にも、住民が主体であり、その地で暮らしていくために必要な活動をお手伝いし、必要のないことを押し付けることなく支援するという謙虚で誠実な想いがありました。

震災後、新聞等に書籍がもたらす安らぎについて書かれた記事や投書、絵本に見入る幼い子どもたちの写真が掲載されました。陸前高田市や南三陸町では、以前と姿を変えて住民に図書館サービスを提供しています。震災から未来に進むため、モノだけでなくキモチの再建が必要であり、図書館はそのための支援を続けていくことが大切です。

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館(☎421-4545)へお問い合わせを

報告 館内研修を実施しました

平成二十四年四月から、中央・保谷駅前・柳沢・ひばりが丘図書館は、館内整理日のため毎月第三金曜日を休館しています。この日は、研修や資料の大きかりな整理等を行っていただきます。

図書館の運営方針の目標の一つに「生涯学習の拠点として、市民の創造的学習への援助を行う」ことが挙げられています。そのためには職員

の資質の向上は不可欠です。図書館では、職員の自己研鑽に任せるだけでなく、計画的な館内研修が必要であると考えてきました。毎年行っている図書館事業評価でも、図書館協議会による二次評価で、「時代の変化に伴い成長する図書館員として研修の強化を期待したい」という指摘を受けています。

そこで、今年度は、館内整理日を利用して、「児童サービスにおける図書館と市民ボランティアとの連携について」「一般図書の選定について」「レファレンスサービス入門講座」「地域・行政資料サービスについて」「ブックトーク研修」「ハンディキャップサービス概論」等の研修を行いました。

動体外式除細動器の利用方法の实地講習を受けました。安心して図書館を利用していただくためにも、定期的な訓練と講習受講の必要性を改めて感じました。

報告 各サービス部門で講演会を実施しました

西東京市図書館では、毎年度、各サービス部門が、講演会や講座を実施しています。平成二十四年度も、成人、児童、地域・行政資料サービスが開催されました。

成人サービスは、三回の連続講演会として、「東日本大震災被災地は、いま：」を実施しました。第一回の「図書館も被災した被災状況と支援活動」では、社団法人日本図書館協会東日本大震災対策委員の吉田光美さんに、映像を交えながら、マスメディアでは取り上げられる機会が少ない図書館の被災状況と日本図書館協会が行っている支援活動についてお話しいただきました。第二回の「被災地幼稚園で水戸黄門を歌う園児」では、図書館への支援活動のため継続的に被災地を訪れている矢崎省三さんに、映像とともに被災地

で聞いたエピソードと現在の様子を紹介していただきました。第三回の「気仙沼、復興の現状と課題」JVCの復興支援活動の現場から」では、二〇一一年八月から気仙沼市鹿折(ししおり)地区に常駐して復興支援活動に携わっている特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンターの岩田健一郎さんを講師に招きました。津波等の被災状況がわかる映像や復興に取り組む現地の方たちへのインタビュー映像を見ながら、鹿折地区の復興の状況と課題についてのお話を聞きました。「被災した地は新しい取り組みがされている先進地だ」という指摘が印象的でした。

児童サービスは、講演会「本とおして子どもとつきあう」を行いました。講師は、日本児童文学の研究である武蔵野大学教育学部教授の宮川健郎さんです。「声の文化」から「文字の文化」への移行期にあたる小学校一〜三年生の時期における「読み聞かせ」の意味や絵の「本」であり視覚的なものである絵本と言語芸術である児童文学の違いなどを本を紹介しながら、具体的にお話しくださいました。ご自身の体験を交えたお話で、本をどのように選んで子どもに手渡していったらよいか、よくわかりました。

地域・行政資料サービスは、二三年度に引き続き吉田豊さんによる古文書入門講座「寺子屋式古文書手

記録に残る田無・保谷の富士講

田無、保谷の富士講は、身祿の後継者三女はな(二行花)の弟子近江屋嘉右衛門が立てた「丸嘉講」です。丸嘉講には六つの組があり。その一つ「田無組」は、田無、保谷、東久留米、武蔵野、三鷹、小金井、小平、清瀬、石神井の講中によって構成されましたが、成立時期はよくわかりません。田無の秀行道楽(近江屋嘉右衛門の弟子善行道山とも言われる)が田無周辺に多くの枝講を立てたのが元になったといわれています。

田無組の大先輩、武蔵野市関前の秋本安五郎の子孫の秋本家が所蔵する万延元(一八六〇)年六月の参拝記録『登山諸入用并村々人数控帳』によると、総勢七十九名で登山し田無村からは二名が参加し金一両を払っています。明治二十二年富士吉田(山梨県)の宿坊に奉納された絵馬には田無組講中三百八十六名が記され、田無町講中百四名の名前がみられます。また、大正十四年の奉納絵馬に



講演会「舟雲先生の武蔵野学」

習いかな読みに始まり、冊子を読み上げるまで」を開きました。新しい受講者が新しいテキストで学びましたが、今回も好評で、古文書に関心を持つ方が多いことがわかりました。今後も継続して取り組みたいテーマです。また、書家であり、研究者である武蔵野大学教育学部教授の廣瀬裕之さんを講師に招いて、講演会「舟雲先生の武蔵野学」刻された書と石の記憶」も実施しました。武蔵野地域にある国木田独歩の『武蔵野』にちなんで建てられた石碑などを取り上げ、その由来や「石」と、刻された文字のこと、拓本の技術のことなど多岐にわたってお話しいただきました。歴史、文学、書など、参加した方たちの多様な関心に応える内容だったと思います。

先達をしていた北原の下田伝右衛門の名前が残されています。

上保谷村には江戸末期から明治初期にかけて生涯に六十六度も富士登拝した大先輩野口次郎がいました。子孫の野口泰治家の庭には富士浅間神社の石造の祠と六十六度登山の記念塔が立っています。上保谷講中が宿泊した富士吉田の宿坊には寛政七(二七九五)年に登拝した上保谷村六名の名前が入った扁額が残されています。

富士登拝の道「富士街道」

江戸から富士に向かう道は新宿からの甲州街道と、板橋、練馬を経て市内を通る「富士街道」(道者街道)です。市内から先の経路については諸説あり、代表的なものは二つです。一つは、田無の柳沢で青梅街道につきあたり右折して西へ進み橋場で立川道に出て小平、国分寺、立川と抜け甲州街道へ入る道。もう一つは、青梅街道に至る手前、六角地藏石幢横の深大寺街道を南下し五日市街道を通り、武蔵境を経て野崎で調布への道をとって甲州街道へ入る道です。

街道では、旧暦六月一日から七月末まで、富士講中が白装束に日(雨)除けを身に付け金剛杖を持ち鈴を鳴らしながら歩く姿が見られました。途中、日野宿、上野原、小沼に泊まり、帰りに大山を回って七〜八日をかけての富士登拝であったようです。

図書館だより版

にんにん西東京

第1回 富士講

地域・行政資料室では、郷土西東京を知る資料として子ども向けの『にんにん西東京』を発行しています。その大人版として、今号から地域にかかわるテーマを取り上げた連載を始めます。第一回は「富士講」です。

日本を代表する山、富士山。晴れた日、はるかに望むその姿は美しく神々しくもあります。「富士見」の名も各地で見うけられます。日本には山を崇拝し神として敬う習慣が古くからありました。富士山は最も神威の高い霊山として浅間神社(富士山本宮浅間大社)が祀られています。

江戸時代、庶民に広まった富士信仰 「富士講」は富士山登拝を目的として結成された信仰的講集団です。開祖は修験者、角行藤伝で、富士山で過酷な修行を行い法力を得て、江戸初期に富士信仰を広めました。

講祖はその傍系の弟子にあたる食行身祿です。「正直・慈悲・情・不足」という自らの思想を広めた身祿は、享保年間の飢きんや幕府の失政を憂い世直しを祈念して、一七三三年七月十三日富士山七合五勺目の烏帽子岩の元に入定(断食行)により自ら命を絶つこと)しました。これを機に



西都右京です。「にんにん」と呼ばれています。よろしくお願ひします。

富士講のことを詳しく知りたい方は地域・行政資料室へどうぞ。資料を紹介します。

弟子たちがつくったのが富士講です。江戸中期には村上光清を講祖とする村上派も含め、「江戸八百八講」と言われるほど隆盛しました。

富士講は代表者数名が富士山へ詣でる代参講で、先達・講元・世話人の三役のもとに組織されました。先達は富士信心の道に詳しく、富士登山経験七度以上でなければなりません。講元は講の財政を預かり、世話人は講員の勧誘と講金の集金役です。講は期間を区切って積立金を集め抽選で代参人を選びます。順次登拝し、全員の登山が終了すると会計決算をして次期の講員を集めました。

江戸では富士山を模倣した「富士塚」造りも広まりました。富士山の火山岩で築かれ、富士登拝と同じ利益があるとされました。

西東京市周辺では、芝久保の立川道沿い、清瀬市中里、同竹丘に築造され、富士浅間神社が祀られました。



保谷駅前図書館からは富士山が見えるんだ

「らく七歳養女：…どんな思いだったかな。幸せに暮らしたかな」「生きていくうちに、息子彦六に会わせてください。…親の気持ちは、いつの時代でも同じだな」

「仲間外しをされた」と忠右衛門は言っているが、忠右衛門にも何か問題がありそうだな」

下保谷村に關係する『人別關係文書』や田無村に關係する『下田家文書の一部』を学びながら、右のような思いになります。私の頭の中は、江戸時代末期にタイムスリップし、下保谷村や田無村の村民の気持ちになっています。

私は、昨年から古文書を学び始めました。きっかけは、西東京市中央図書館主催の講座「寺子屋式古文書手習い」に参加したことです。講座終了後、参加者有志が結成したサークルにも参加し、引き続き講師の吉田豊先生に御指導をいただいています。

昨年の秋、吉田先生の勧めにより、下保谷村の『人別關係文書』の解説に取り組みました。その後、田無村の下田家文書目録中の『訴訟・出入關係文書』の学習に取り組み



でいます。『訴訟・出入文書』とは、もめごとの記録文書です。いわば「田無村トラブル記」です。一般の人々が、日常どのような問題を抱えながら、生活していたかがよく分かります。

古文書のコピーを元にして、一字一字解説していきますが、何しろ初心者ですので、最初は全く歯が立ちません。字典や關係資料に基づき解説し、吉田先生の御指導をいただきます。

何回も古文書を読むうちに、内容がおぼろげなものから明確になり、私はすっかり古文書の世界に入り込み、心は、江戸末期の田無村等の村民にな

つています。

古文書の解説には字典や資料が必要です。私は昨年から、中央図書館のレファレンス席を、頻りに利用させていただいています。

古文書を学ぶ以前の図書館は、本を借り雑誌を読む場所でした。今は、私を、江戸時代末期の田無村等の世界へ導き、いざなってくれる場所となっています。

平成二十四年度 図書館協議会報告

平成二十四年度は、図書館長から依頼を受け、西東京市図書館における電子書籍のあり方について意見をまとめるための検討を重ねました。会議は、定例会を四回、臨時会を二回開催しました。また、視察研修を一回実施しました。

以下各回の議事内容について、日程順に報告します。

第1回定例会(平成24年5月24日)
委員委嘱について。諸報告について。平成二十四年度図書館協議会の活動について。

第2回定例会(7月19日)

諸報告について。図書館事業評価について。電子書籍について。その他。

第1回臨時会(9月27日)

図書館事業評価について。電子書籍について。その他。

第2回臨時会(11月15日)

研修報告について。電子書籍について。その他。

第3回定例会(平成25年1月24日)

諸報告について。電子書籍について。

第4回定例会(3月28日)

電子書籍について。

視察(平成24年11月6日)
千代田区立図書館視察。委員三名、職員二名参加。

なお、今期の委員は、平成二十五年

新聞縮刷版の収集館を 変更しました。

四月三十日をもって任期が終了します。

平成二十五年一月号より、新聞縮刷版の収集館が次のように変更になりました。

- 朝日新聞 中央図書館
- 毎日新聞 ひばりが丘図書館
- 読売新聞 柳沢図書館
- 日本経済新聞 中央図書館

なお、新聞縮刷版については、館外貸出はできませんが、所蔵館から取り寄せて館内でご覧いただくことができます。

編集後記

地域・行政資料担当の連載がスタートしました。西東京市や昔の田無・保谷のことが知りたいという声は、中央図書館の地域・行政資料室を訪れる方や転居を検討されている方、図書館主催の講演会に参加された方などから多く寄せられます。西東京市誕生時に、子ども向けに創刊した『にんにん西東京』の紙面で生まれた図書館のキャラクター「にんにん」と西都右京くんと一緒に、昔のことや今のことを少しずつ記録してお知らせするコーナーにしていきたいと考えています。現在の蓄積がこの先の西東京市の歴史になります。

葉桜の中、新年度の取り組みが図書館でもあちこちで始まります。